



明日は 運動会です！

先週から、学校では朝、運動会で演奏する太鼓のリズムが教室から聞こえてきています。声で太鼓のリズムを何度も練習しているのです。今日も実際に太鼓をたたきましたが、運動会直前まで太鼓の練習をして本番に臨む予定です。最後の仕上げの練習です。太鼓のリズムは全て覚えていますが、終わりの掛け声「ヤーッ！！」という“きめの部分”がまだ弱い、と先生方からは指導されています。当日も含めて、自分たちのやってきたことともっている力を出し切るように声かけをしていきたいと思えます。



2018年6月8日(金)
第8号
発行 校長 東 明 彦

この運動会の目的は、①体育的な集団行動を通して、児童・生徒に運動することの楽しさや喜びを味わわせる。②「スイスに在住する日本人の運動会」としての性格を持たせ、健康の保持増進を図るとともに、親睦を深める。の2点です。

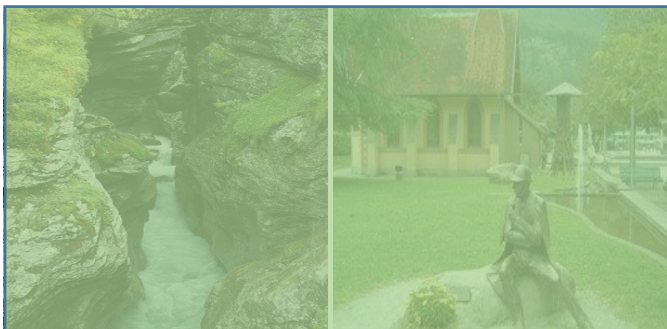
日本語補習校の児童・生徒たちとともに、練習してきた和太鼓の演奏を披露したり、たくさん的人数でリレーを走ったり、集団の競技(棒引きや綱引き)など、合計で16種目に挑戦します。実際の体験を通して学ぶことができるよう、私たち教職員も、用具を確認したり、足りない用具をつくったりと準備に追われています。児童・生徒のみんな・保護者の皆様・チューリッヒ日本商工会の皆様・全教職員で楽しい中にも、学ぶことが多い運動会にしたいと願っています。まずは、体調に気をつけて、当日を迎えましょう。

お別れ会

とてもさみしいことですが、Aさんが日本に帰国して、日本の学校に行くことになりました。2年生の4人で、毎日元気に職員室に朝のあいさつに来てくれていた姿が忘れられません。Aさんは、授業中も、「先生、ここから先に進んでやってもいいですか?」と、すごく前向きに授業に取り組んでいました。

お別れ会では、児童生徒会みんな考えてくれた歌を贈って、気持ちを伝えました。

「以前は人見知りだったのですが、この学校に来てとても前向きに話すようになりました。」とお母さんから聞かせていただいた時には、とてもうれしいのと同時に、よかったなと思いました。学校と学級はさみしくなりますが、どうか元気で日本の学校に通ってください。「わたしのことを忘れないでください。」と、最後の解散会の司会を務めたAさんは言いました。チューリッヒ日本人学校のみんなは、忘れることはありません。元気な笑顔をありがとう。さようなら。



サマーキャンプも着々と

児童生徒たちは、毎日の学習・J Sタイムの活動・運動会・太鼓の練習など、いろいろなことに積極的に取り組んでいます。それぞれの学年では、「魔の曜日」があるそうで、例えば中学部では、木曜日だそうです。学級の今週の目標を書く掲示板には、「木曜

日乗り越える!生きる!」という目標?が書かれていたこともあります。その合間を縫って、サマーキャンプの準備も着々と進められています。運動会と中学部の1学期期末テストが終われば、すぐにサマーキャンプに入ります。1学期のまとめの学習として、とても大切な活動になります。担当の前田先生から説明を聞き、サマーキャンプの目的もしっかりと確認しました。一人ひとりに役割があり、みんなで協力し合って、学びの多い活動にしていきたいと考えています。この活動は、本校全体で取り組んでいる、「アクティブラーニング」の一つの形でもあります。知的好奇心があふれてくるような活動を期待しています。

図書ボランティア



6月5日(火)に、ボランティア活動の一つとして、図書整備をしていただきました。ありがとうございました。本の整理とともに、コンピュータに本を登録していこうという計画です。

2017年度末で、本校の図書室には4634冊の蔵書がカウントされています。小学生向けの本が3089冊、中学生向けの本が1545冊となっています。毎年、古い書籍やデータを廃棄しています。ただ、同じ本が2冊あったり、新しい図書を購入する時に、今までにあるものとだぶって購入してしまったり、という状況がありました。学校図書館は、全8条からなる「学校図書館法」を根拠法として、学校には設置しなければならない基本施設であるとされています。また、学校図書館に所蔵している図書については、図書台帳を整備し、管理することが求められています。チューリッヒ日本人学校でも、これまでからボランティアの皆様のお力を借りながら、図書の管理はしてまいりましたが、今回さらに本の整備・修繕・管理を進めていく方向で考えております。

5日(火)には、予定の時間を過ぎて1時間以上作業をしていただきました。また、今後についても、できる限りお手伝いいただくよう、ご提案をいただきました。本当にありがとうございました。

保護者の方から課題図書をいただきました

これまでもたくさんの課題図書を寄贈いただいている日本語補習校の保護者の方から、今年も下の一覧表にある課題図書を寄贈していただきました。本当にありがとうございました。課題図書は、それぞれの年代の子どもたちに、是非とも読んでほしい本を毎年選定し、全国読書感想文コンクールの対象図書として指定しているものです。数学者の藤原正彦さんが、その著書『祖国とは国語』という本の中で、日本語という国語の重要性や言葉のもつ最も大切な意味について、ご自身の経験と言語社会学等の知見を織り交ぜて書かれています。その中で、「本には最も読んでほしい時期がある」といったことを書いておられます。つまり、ある本を深く、自分のものとして読むためには、発達段階に応じた、最もよい期間がある、ということです。もちろん、生涯をとおして読みついでいく本がありますが、それは、その本と出会うのに最も適した時期にその人が読んだことによって、「一生の友となる本に出会うことができた」のだということです。藤原さんは、少年少女世界文学全集の広告に「早く読まない大人になっちゃう」という言葉があって、その言葉に大変に感心した、という旨のことも書いておられます。

そういった意味で、課題図書は、その年齢に応じて読んでほしいという観点から選ばれているので、子どもたちの発達段階に合った本といえます。今年は下の表の12冊をいただき、現在図書室で児童・生徒に読んでもらうのを待っているところです。本当にありがとうございました。

本の名前・出版社	著者名・訳者名	
ルラルさんのだいくしごと (ポプラ社)	著者:いとうひろし・作	小・低学年
きみ、なにがすき? (あかね書房)	著者:はせがわさとみ・作	
なずずこのっぺ? (フレーベル館)	著者:カーソン・エリス・さく アーサー・ピナード・やく	
がっこうだっどきどきしてる (WAVE出版)	著者:アダム・レックス・文 クリスチャン・ロビンソン・絵 ながわちひろ・訳	
レイナが島にやってきた! (理論社)	著者:長崎夏海・作 いちかわなつこ・絵	小・中学年
森のおくから:むかし、カナダであつたほんとうのはなし (ゴブリン書房)	著者:レベッカ・ポンド・作 もりうちすみこ・訳	
最後のオオカミ (文研出版)	著者:マイケル・モーパーゴ・作 はらるい・訳 黒須高嶺・絵	
すごいね!みんなの通学路 (西村書店)	著者:ローズマリー・マカーニー・文 西田佳子・訳	
クニマスは生きていた! (汐文社)	著者:池田まき子・著	小・高学年
こんぴら狗 (くもん出版)	著者:今井恭子・作 いぬんこ・画	
奮闘するたすく (講談社)	著者:まはら三桃・著	
ぼくとベルさん:友だちは発明王 (PHP研究所)	著者:フィリップ・ロイ・著 櫛田理絵・訳	